

めでいかすとり Medicastre



「 卯年の年男・年女 」

鶴岡地区医師会

令和 5 年 1 月号

年頭のごあいさつ



新 年 換 拶

一般社団法人 鶴岡地区医師会
会長 福原 晶子

新年明けましておめでとうございます。会員の先生方、職員の皆様は、穏やかにお過ごしになられたでしょうか。今年は久しぶりにお出かけになられた方も多かったのではと思います。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3年前に発生した新型コロナウイルス感染症も第8波となり、感染者数は相変わらず高止まりの様相ですが、懸念されたインフルエンザとの同時流行も、年末年始には起こらず、一安心といったところです。この1年間でも、医師会関連事業において、いくつかの感染例はあるものの、クラスター発生とまでは行かなかったことは喜ばしいことでした。しかしながら、家庭内感染により多くの職員が休職することで、各会員の皆様方の診療所・医師会事業所において、人員のやり繰りに御苦労された事も多数あったことと思われまふ。今後も気を抜くことなく、対応していかなければならず、皆様方のご協力をお願いいたします。

今年は、3月末で60年余りの歴史ある鶴岡准看護学院が閉校いたします。最後の学生が全員無事に卒業し、資格試験に合格するよう、関係者一同頑張っております。今まで講師をお引き受けくださいました皆様には、心から感謝の気持ちで一杯です。最後までご支援のほど、よろしくお願ひいたします。医師会として看護職員の養成がなくなりますので、今後の看護職員の

確保については地域の問題として、新たな方策を考えていかなければなりません。看護職の魅力を伝え、希望する学生や社会人への就学支援や有資格者へのUターン就職要請、休職中の方々への復職支援など、取り組んでいきたい所存です。

医師会としては、会員の高齢化による諸問題が長年の懸案事項となっておりますが、最近、若い先生方の入会が増え、また、医師会活動にも理解を示されていることは、非常に喜ばしいことです。とは言え、それを上回る勢いで校医・産業医・嘱託医の確保や、健診事業や警察検案業務の協力、休日夜間診療所への従事など、まだまだ困難な事には変わりありません。どうぞ、皆様の更なるご理解とご協力を改めてお願ひする次第です。

医師会事業としては、医師会館の空調設備工事や老健施設みずばしょうの外壁工事など、施設の経年劣化による大規模修繕工事も行っています。今後は、新たな事業の展開は難しい局面が多いですが、現状の維持と内容のブラッシュアップを心掛けていきたいと思ひます。また、職員確保、特に湯田川温泉リハビリテーション病院医師の確保は喫緊の課題と考え、最も重要事項として今後も取り組んでいきたいと思ひます。

年頭のごあいさつ



2023年、年頭のご挨拶と2022年のご報告

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院
院長 武田 憲夫

鶴岡地区医師会会員の皆様、医師会職員の皆様、令和5年、明けましておめでとうございます。旧年中は、当院運営に関して、色々ご指導、ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

新年に当たり、年頭のご挨拶と2022年のご報告をさせていただきます。

昨年1年間、新型コロナ感染を始め様々なことがありましたが、幸い患者さん、病院には大きな支障や医療事故などは無く、無事、年を越すことが出来ました。

新型コロナ感染へは、2020年春から、他の各医療施設同様、もう足かけ3年にわたり、緊張感を持っての対応が続いております。当院病棟では、2021年8月（第5波期）、2022年1月（第6波期）、2022年11月（第8波期）と3回の院内感染がありました。2回目と3回目は患者さんも感染してしまいました。感染した患者さんは中等症Iまでの感染レベルでしたが、せん妄、不穏状態の激しい、重度の高齢認知症患者さんであったため、当院で治療を行うこととなり、当院で臨時隔離病室を立ち上げ、看護師が四六時中、つききりの対応を行いました。ラゲブリオなどで治療し、幸い治癒させることが出来ました。迅速に対応出来たためか、何れも大きなクラスターにはならず、終息出来ました。庄内保健所、荘内病院などのご指導、ご支援の賜と感謝しております。一方、最近の感染は、子供さんなどを感染源とした家庭内感染が、職員自らの感染や濃厚接触といった形で波及する事が少なくありません。このため時に複数の職員が休むことになり、仕事に支障が出てくる、というような現象が起きています。子供の感染を防ぐことは難しく、気の休まらない日々が続いています。ご承知の通り、特に最近のオミクロン株（第8波）は、若年者が重症化することは少ないようですが、死亡者数は以前よりむし

ろ多く、特に基礎疾患のある高齢者に多いようです。当院の患者さんの多くが、基礎疾患のある高齢者に当たります。まだしばらくの間は、感染予防、患者さんを守る、家族を守るという観点で、緊張感を持って感染予防を続けて行く所存です。

また、昨年は、4年振りに院長が各職場を廻り、意見を伺うタウンミーティングを始めました。コロナ感染への対応などに追われ、なかなか実現出来ずにおりました。この度も、職員から貴重なご意見を聞く事が出来、不完全であった車椅子による病院周回通路の整備、病院紹介としてSNSの利用など早速取り組み始めた事項もあります。しかし、コロナ感染などもあり、まだ1/4の職場には訪問出来ていません。年度内には全職場での話し合いを終了する予定です。

また、今年度中に、これまでよりもはるかにバージョンアップした画像管理システム(PACKS)が導入されます。これまでの病棟以外に、医局、外来、リハスタッフルームでも画像を見ることが出来ますし、嚙下造影、エコーなどの動画観察も可能となります。病棟には高精細画像モニターも導入されます。他院からの画像データもサーバーに入れることが出来ますので、診断、病状把握、検討会などに効果を発揮するものと期待しています。昨年度の光ファイバー導入による院内LANの整備と今年度のPACSの整備で、遅ればせながら、ようやく最終目標の電子カルテ導入へのインフラ整備が出来上がったこととなります。当院の更なるステップアップのためにも、鶴岡市、鶴岡地区医師会のご理解を戴き、早急な電子カルテ導入を実現させたいと考えております。

以上簡単ですがご報告申し上げます。本年も宜しく願い申し上げます。



三原 一郎 先生 旭日双光章受章

まことにおめでとうございます

旭日双光章を受章して

令和2年春の叙勲に際しては旭日双光章の拝受の栄に浴し、身に余る光栄と汗顔の思いでした。丁度新型コロナウイルス感染症が拡大の時期でもあり、皇居での天皇陛下への拝謁は叶いませんでしたが、鶴岡市役所での伝達式で皆川市長より勲記勲章を拝受致しました。

さて、私の地域での活動の発端は、医師会の情報化に貢献して欲しいとの当時の医師会幹部からの勧誘でした。大学病院時代からコンピュータープログラミングに熱中していましたので、渡りに船とばかりに役員を承諾しました。最初に手掛けたのは、イントラネットの構築でした。イントラネットを利用し、仲間と共にホームページやメールによる情報流通を促すとともに、在宅患者情報共有システム、医療相談、臨床検査オンライン参照システムなどを開発しました。2000年にそれが認められたかたちで経済産業省の「先進的IT活用による医療を中心としたネットワーク化推進事業」を受託することとなり、地域電子カルテ「Net4U」が開発されました。他地域のシステムが頓挫するなか、「Net4U」は20年以上にもわたり着実に運用され、全国で最も歴史のある地域電子カルテとして知られています。その後、庄内南部地域連携パス推進協議会の設立と複数の地域連携ITパスの運用、全国から4地区のみが選ばれた緩和ケア普及のためのプロジェクトの実践、多職種連携の要となる地域医療連携室「ほたる」の設立、鶴岡みらい健康調査など数々のプロジェクトに関わらせて頂きました。このような多くのプロジェクトを当地区で実践できたのは、活発な活動を展開してきた鶴岡地区医師会の存在、医療者のみならずさまざまな立場の皆さんの熱い思いと弛まぬ努力、さらには地域外からのプロフェッショナルな皆さんの熱心なご指導ご鞭撻によるものです。今回の受章は、鶴岡のために尽力されてきた多くの皆さんの代表として頂いたものです。皆さんと栄誉を分かち合いたいと思います。ありがとうございました。

令和4年12月9日

三原 一郎



三原一郎先生 旭日双光章受章祝賀会

日時：令和4年12月9日(金) 19：00～

場所：グランドエル・サン クリスタルホール

三原一郎先生は、令和2年春の叙勲において、鶴岡地区医師会会長をはじめ種々主要な役職を歴任され、保健・福祉の向上、地域医療の発展など、長年にわたりご尽力された功績が認められ「旭日双光章」を受章されました。

祝賀会は、新型コロナウイルス感染症の影響で2年遅れの開催となりましたが、当会会員のほか、三原先生と公私ともに親交の深い総勢110名の方々からご出席いただき、この度の受章を祝福いたしました。



第42回 市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院 こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：令和4年12月12日(月) 19:00～
場所：東京第一ホテル鶴岡 鶴の間

12月12日、東京第一ホテル鶴岡において、第42回市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会が開催されました。

鶴岡市長 皆川治氏よりご挨拶をいただき、鶴岡市健康福祉部地域包括ケア推進室長 佐藤清一氏、庄内保健所長 蘆野吉和先生、鶴岡市立荘内病院 診療部主幹 兼 神経内科主任医長 丸谷宏先生より話題提供をいただきました。

詳細は抄録をご覧ください。

* * * * *

医療機関と連携した災害時の避難行動要支援者個別避難計画の作成について

鶴岡市健康福祉部地域包括ケア推進室長 佐藤 清一

災害時の避難行動要支援者個別避難計画について、医療機関と連携して、在宅人工呼吸器使用者と医療的ケア児の個別避難計画を作成した事例についてご紹介します。



1. 災害時避難行動要支援者個別避難計画とは

災害時の避難行動要支援者個別避難計画とは、災害時において、避難に支援が必要な方一人ひとりについて、誰が支援してどんな方法で、どこに避難してもらうかをあらかじめ決めておく計画です。

鶴岡市では、避難行動要支援者の基準を以下のとおりとしており、該当者は令和4年11月30日現在、約14,000人となっています。ただし、この人数は、基準に基づいて機械的に算出した人数であり、個別避難計画の作成を通して、真に支援を必要とする方の把握に努めているところです。

〈要支援者（鶴岡市の基準）〉

ア 後期高齢者（75歳以上）単身世帯の世帯員	オ 療育手帳A所持者
イ 後期高齢者（75歳以上）のみの世帯員	カ 精神保健福祉手帳1級所持者
ウ 介護保険法における要介護3以上の認定者	キ 上記以外で避難支援を希望する者
エ 身体障害者手帳1級若しくは2級所持者	

2. これまでの取り組み経過

個別避難計画の作成は、地域の状況を一番把握している町内会等の地域の方々からご協力をいただき、各地域の状況に合わせて、個別に相談しながら進めています。

一方で、在宅人工呼吸器使用者や医療的ケア児など、避難支援の優先度が高いと考えられる、在宅の常時医療的ケアが必要な方をどのように把握し、個別避難計画を作成するかが課題となっていました。

3. 作成事例①（在宅人工呼吸器使用者）

Aさん（40代男性、鶴岡市内在住）

- ・病名：脊髄小脳変性症
- ・状況：在宅人工呼吸器使用 要介護4
普段はベッド上で過ごしているが、日常的な移動は車いすを使用
- ・家族構成：本人、母（70歳代、主たる介護者）
- ・かかりつけ医療機関：協立リハビリテーション病院
- ・担当ケアマネジャー：協立ケアプランセンターふたば

Aさんの個別避難計画の作成は、庄内保健所子ども家庭支援課の保健師から、相談があったことがきっかけです。

Aさんの主治医からは、「本人の身体状況、ケアの必要性、集団生活環境による体調変化を考慮すると、指定避難所への避難では対応できない。避難先は、かかりつけ病院が最適」との意見をいただきました。これをもとに、本人、家族、担当ケアマネジャーと協議し、Aさんの個別避難計画の概要を以下のとおり作成しました。

【Aさんの個別避難計画（概要）】

- ①平時からの備え（ハザードマップの確認、バッテリー等の準備）
- ②要避難情報の入手
 - ・自己覚知（ニュースによる情報、LINE アプリ（鶴岡市防災）の情報）
 - ・鶴岡市では「高齢者等避難」の発令が予測される際には、該当する地域の町内会長へ連絡することになっており、連絡を受けた町内会長はAさん宅に情報を伝達。
- ③避難先である協立リハビリテーション病院に連絡
- ④担当ケアマネジャーにも連絡
- ⑤母の介助により、自家用車で移動（介助者1名で車いす移動、車両移動可能）
- ⑥協立リハビリテーション病院でケア、状態管理

4. 作成事例②（医療的ケア児）

Bさん（幼児男性）

- ・病名：蘇生後脳症 等
- ・状況：在宅人工呼吸器使用
- ・家族構成：本人、父母、祖父母、兄2人 ※主たる介護者（母、祖母）
- ・かかりつけ医療機関：荘内病院

Bさんの個別避難計画の作成については、荘内病院かかりつけの在宅人工呼吸器使用者や医療的ケア児の個別避難計画の作成について地域医療連携室に相談したところ、4階東入院棟看護師が医療的ケア児の個別避難計画の作成に取り掛かっているという情報があったことから、まずはBさんの個別避難計画を連携して取り組むこととしたものです。Bさんの関係者と協議し、主治医の判断により、避難先は荘内病院となりました。現在、Bさんの家族との協議について調整中であり、Bさんのケースをモデルとして、その他の医療的ケア児の方についても順次作成していくこととしています。

5. まとめ

在宅人工呼吸器使用者や医療的ケア児の個別避難計画の作成に当たっては、医療機関や日常的に関わっている福祉専門職等の支援・協力が必要であり、普段から顔の見える関係の重要性を実感したところです。

災害時の避難行動要支援者の個別避難計画の取組は、防災分野の範疇ではありますが、私たちは地域包括ケアシステムを構成する要素の一つと考えています。

鶴岡市では、これからも、誰もが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを安心して続けることができる地域社会の実現に向けて取り組んでまいりますので、皆さまには、今後ともご支援、ご協力をいただきたくお願い申し上げます。

* * * * *

庄内保健所長 蘆野吉和先生、鶴岡市立荘内病院 診療部主幹 兼 神経内科主任医長 丸谷宏先生の抄録は令和5年3月号に掲載いたします。

表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）



ご協力ありがとうございました。

新年の抱負（年男・年女）

滝沢 元（滝沢眼科）

私は卯年ですが、三日早くに生まれていれば、寅年のはずです。「卯」の性格は上品、争いを好まず、優雅繊細。「寅」は強い意志、行動的だそうだが、どちらも私の性格から合致していないようです。女房は丑年で、卯年の人でも寅年の人でもとても相性が良いそうです。喧嘩の時、卯年が一步引けば全て上手くいくとのこと、これは我が家に正にピッタリ合致。

松浦 優（わかな内科医院）

いくつもの時間を経て最終の年女を迎え、不器用ながら人の生に関わる道に専念し得た事に深い喜びを感じる。論語の教えに「知っているだけの人」は「それを好きな人」に及ばず更に「それを楽しんでいる人」には及ばないと。余生は厳父・慈母を胸中に心衰えず楽しく穏やかに過ごしたい。

尾形 直人（老人保健施設のぞみの園）

還暦から干支が一回りして6回目の年男ですが、この期間に大震災、パンデミック、戦争まで起こるとは……。今年こそ普通の穏やかな年になって欲しいです。今年もよろしく願いいたします。

鈴木 豊（耳鼻咽喉科たからクリニック）

2018年11月に耳鼻咽喉科のクリニックを開院して5年目、わたくしも今年で60歳、還暦を迎えることとなります。当初は難聴・めまいに力を入れたクリニックを目指しておりましたが、新型コロナウイルスの影響で現在は上気道感染症が診療の中心となってしまいました。インフルエンザとの同時流行の事態も想定されますので、当院としても地域の医療のお役に立てるよう努力してまいります。

坂本 薫（鶴岡市立荘内病院）

明けましておめでとうございます。昨年は外科医、医局長、DMATなどの立場から、様々な課題をいただきました。本年もこれらの課題を一つ一つクリアーして行きたいと思っております。今年もよろしく願いいたします。

石橋 朗（石橋内科胃腸科医院）

新年明けましておめでとうございます。

鶴岡市に帰省し約半年が経ちました。日常業務もまだまだ不慣れな所が多く、生活面でも久々の雪に慣れなければと日々課題だらけですが、今後も精進致しますのでよろしくお願い致します。

土田 兼史（土田内科医院）

かくあれかしと願うのとは逆の方向に世の中が動いていると感じつつ、自分自身は — 色々大きな出来事に翻弄されながらも — 総じて幸せな日々を過ごしています。

皆さまにとっても令和5年が幸せな年でありますように。

大勝 康信（おおかつ眼科）

2年前からブルゴーニュワインの勉強を始めました。毎日深夜に2、3本飲み比べては記録をします。何歳になっても趣味はいいなって、還暦を前に思いました。

**齊藤 佳寿**（あい庄内クリニック）

2020年10月の開院以来、数多くのがん患者さんの緩和ケアに関わってきました。

今年はより多くの方々に快適な在宅での療養生活を送って貰えるように、訪問診療医の視点から、緩和ケア指導医の資格を取得できるよう頑張ります!!



「鶴岡地区三師会」開催される

日時：令和4年11月11日(金) 19:00～

場所：グランドエル・サン クリスタルホール

事務局長 土屋 清光

鶴岡地区三師会の定例会が去る11月11日(金)にグランドエル・サンで開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で前回平成31年2月から実に3年9カ月ぶりの開催となりました。出席者は医師会20名、歯科医師会18名、薬剤師会11名、計49名の参加を得ました。

はじめに今年の当番会である医師会の福原会長から挨拶がありました。久しぶりに定例会を開催し皆様とこうしてお会いできて嬉しく思う、三師会の先生方には新型コロナ対応に日々ご尽力されていることに敬意と感謝を申し上げる、第8波に入ったと言ってもいい状況下ではあるがインフルエンザとの同時流行にも備え関係機関と連携を図り対応していきたい旨のお話がありました。

続いてプレゼンテーションとして荘内病院DMAT(外科)坂本薫先生から、新型コロナ対策「荘内システム」をふりかえる～DMAT災害医療の立場から～と題して講演をいただきました。坂本先生からは去る7月22日に開催した病院勤務医と医師会会員との懇談会でも講演いただいておりますが、歯科医師会、薬剤師会の先生方にも是非「荘内システム(南庄内方式)」について理解を深めていただきたいとの思いから再登壇いただいたものです。坂本先生からは、私見として新型コロナをきっかけに地域内で現場レベルの「顔の見える医療連携」システムを構築することができたので、他分野の一般診療でも地域内の横のつながりを重視し施設ごとの特性や役割分担を活かした「南庄内方式」と言えるような医療連携を目指してはどうかとのお考えが示されました。(7月22日開催の懇談会の講演内容は、めでいかすとる9月15日号に掲載されていますのでご参照ください。)

懇親会では歯科医師会の毛呂会長のご発声で開始となりました。三師会の創設からの歴史に触れられ、今後も三師会の連携を継続して発展させていきたいと思います。感染防止対策のもとでの懇親会でしたが、日頃なかなかお会いできない先生方が和やかな雰囲気の中で歓談されておりました。

最後に、三師会の更なる発展を期して、次期当番会である薬剤師会の鈴木会長のご発声とともに、参会された先生方の息の合った一本締めでお開きとなりました。次回も多くの先生方のご参加をお願いしたいと思います。



第15回 庄内プロジェクト 緩和ケア市民公開講座開催

日時：令和4年11月26日(土)13:30～
場所：いろり火の里 なの花ホール

鶴岡市立庄内病院 地域医療連携室 渡部 忠

第15回 庄内プロジェクト緩和ケア市民公開講座が令和4年11月26日(土)、三川町いろり火の里なの花ホールにて開催されました。当日は192名の来場者があり盛況に終了しました。

新型コロナウイルス感染が広がっている時期でしたが、開催するにあたり検温、消毒、人数制限、換気などの感染防止対策の徹底に努めての開催となりました。

当日は「緩和ケア「庄内プロジェクト」が目指すこと」と題して、緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川のセンター長 鈴木聡 庄内病院長が、庄内プロジェクト10年のあゆみと、緩和ケア普及の成果と今後について紹介しました。

続いて「死の苦悩とともに～臨床宗教師の活動とその現場より～」の演題で宮城県栗原市の高橋悦堂（たかはし えつどう）氏と米沢市の妻鳥紘明（めんどり こうめい）氏より講演していただきました。高橋氏からは臨床宗教師の概要として、その誕生から活動内容までを紹介していただき、妻鳥氏からは米沢市立病院の緩和ケアチームとして、実際の患者さんとどのように対話しているかを報告していただきました。

続いて鶴岡市の佐藤剛保健師の司会で、「緩和ケアトーク」という対談コーナーを行いました。臨床宗教師となったきっかけや、やりがいについて伺いました。また、会場からの質問もいただきました。

終了後のアンケートでは「とても良かった83%」「まあまあ良かった16%」と大変好評でした。ほかに「初めて臨床宗教師に関するお話を伺うことができ、とても勉強になりました。」「聴いてよかったと思います。涙がでてきました。自分だったら、主人だったら、……いろいろな思いがあります。こんな機会をいただき、ありがとうございました。」「なかなかこういうお話を伺える機会がなかったのでとても良かったです。」など、多くの来場者からの意見をいただきました。

庄内プロジェクトでは、緩和ケアの普及・啓発を目的として、市民公開講座のほかに、患者さんやご家族と医療者が語り合える場としての「ほっと広場」の提供を今後も進めていく予定です。

令和4年度緩和ケア市民公開講座が、関係者の皆様のご協力で盛会に終了することができ、厚く感謝申し上げます。

講師のお二人



スタッフ集合

緩和ケアトーク



Introduction

研修医

鶴岡市立荘内病院臨床研修医 1 年目 武内 健太郎



どうも、お疲れ様です。
研修医 1 年目の武内健太郎
といいます。はやいもので
勤務開始からすでに 8 ヶ月
が経ちました。あっという
間に過ぎていった、という

のが正直なところ。慣れないといけない部分が多く、余裕のない日々を過ごしていましたがまわりの方々のおかげで大きな問題を起こすことなくここまでくることができました。ありがとうございます。

まず初めに自己紹介させていただきます。出身地は大阪府貝塚市という所で大学受験を機に山形に来ました。大学ではサッカー部に所属し、そこそこ部活は頑張るとともに、8 年かけて大学を卒業しました。趣味は運動、睡眠、麻雀、ちょっとしたギャンブル、好物は海鮮、苦手な物にはんにん、グリーンピースです。山形県はのどかでご飯も美味しく雪以外はいうことなし、かつ海の近くに住みたいという希望があったため、学生の時に実習でお世話になったことのある荘内病院と日本海病院に狙いを定めました。縁あって荘内病院に拾っていただき、ここまで医師としての生活、普段の食生活、社会人サッカーチームでの活動など非常に充実した日々を送ることができております。

この 8 ヶ月間を振り返ってみます。4 月、5 月あたりは業務に慣れることに必死であり覚

えていません。夏前くらいから気持ちに余裕が出始め、海に行って焦げたり、サッカー遠征したり、色々な飲食店に行ったりとプライベートも充実してきたように感じます。仕事面では、少しずつできることを増やしていきたいと思っていましたが、器用ではないかつまゝ頭が悪かったので、みなさんにご迷惑をおかけしてしまっただけが多々あるかと思えます。今となっては謝罪することしかできません。すみませんでした。そして今後にご迷惑おかけしてしまう時があるかと思われませんが、その際は温かい見守りではなく、厳しい指導を是非ともよろしくお願いします。

さて話は変わりますが、2 年間の研修の中で鶴岡を満喫し尽くしたいと思っています。現時点での希望としては、観光スポットを巡る、あらゆる飲み屋に行く、荘内病院の色々な職種の方とコミュニケーションをとる、などなどです。おすすめのスポットや居酒屋などあれば是非教えていただきたいです！目つきは悪いですが、話しかけていただくと大変喜びます。

最後になります。日々、先生方、看護師さん、その他の医療従事者の方には多くのことを学ばせていただいております。心から感謝しております。あと 1 年と少しの間ではありますが、安心感のある医師になれるよう精進していきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

医師会ニューフェイス

①氏名(採用日) ②所属 ③趣味・特技 ④ひとこと



- ① 三浦 二三夫(令和4年12月1日採用)
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 診療部 内科科長 医師
 ③ スキー、ゴルフ、写真、釣り
 ④ 体力は厳しいですが、気力はあるので、新天地での仕事に早く慣れ、皆さんと一緒にやっていけたらと切望します。どうぞ宜しくお願い致します。



- ① 佐藤 智美(令和4年12月1日採用)
 ② 荘内地区健康管理センター
 事業推進課 一般職
 ③ 旅行
 ④ 1日でも早く仕事を覚えられよう、日々精進してまいりますので、よろしくお願ひいたします。



- ① 富樫 孝徳(令和4年12月5日採用)
 ② 荘内地区健康管理センター
 臨床検査課 臨床検査技師
 ③ ゆっくりと泳ぐ
 ④ 若くはありませんが、何かしらのお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



- ① 佐藤 広光(令和4年12月12日採用)
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 臨床検査科 臨床検査技師
 ③ 乗り物・機械操作、写真撮影、音楽鑑賞
 ④ 汗をかくことをいとわずどのような職務にも励む所存です。宜しくお願ひ申し上げます。



- ① 仁平 ゆり子(令和4年12月15日採用)
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 看護課 看護師
 ③ 猫、裁縫、野球観戦
 ④ 酒田から通うことになりましたが、実家が鶴岡なので行ったり来たりします。物覚えの悪い年頃になりましたので、ご迷惑をかけることもあります。どうぞよろしくお願ひします。



- ① 清水 敏(令和4年12月5日採用)
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 看護課 准看護師
 ③ DVD鑑賞
 ④ 誠意をこめて勤務します。よろしくお願ひします。



- ① 岡田 まり(令和4年12月5日採用)
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 看護課 介護福祉士
 ③ 愛犬との散歩
 ④ 至らない点多々あるかと思いますが、よろしくお願ひ致します。



- ① 山口 美紀(令和4年12月12日採用)
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 医事課 一般職
 ③ ドライブ、ジグソーパズル、手芸など
 ④ 子供たちも手を離れ、これから新しいことにチャレンジしていく今、不安と希望で…。頑張ります。



- ① 牧 明子(令和4年12月12日採用)
 ② 在宅サービスセンター 訪問看護ステーション
 ハローナース 看護師
 ③ 家の猫をなでること
 ④ 頑張りますのでよろしくお願ひします。



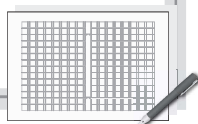
- ① 佐藤 拓斗(令和5年1月1日採用)
 ② 介護老人保健施設みずばしょう
 療養課 介護福祉士
 ③ 旅行
 ④ これから一生懸命頑張りたいと思います。ご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

故 齋藤 壽一 先生のご冥福をお祈り申し上げます。

令和4年11月16日ご逝去 満77歳

原稿募集中！

趣味・話題・旅行記・思い出が
あるもの・大切な思い出の出来事等
なんでも構いません。
総務課までご一報を！



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

今年は、卯年です。中国伝来の十二支は、もともと植物が循環する様子を表しているので、十二支の4番目に、茎や葉が大きくなる様子を表す「卯」がくるのだそうです。

卯年生まれの人性格や特徴はもの静かで行儀がよく上品で繊細、一般的に静かで落ち着いた生活を好む傾向があり、社交性豊かな性格からあらゆる分野で活躍できますが、中でも教師や医師など人から慕われる職種が向いていると言われています。今年も年男・年女の先生方より新年の抱負を語っていただきましたが、その通りではないでしょうか？医師不足・高齢化で地域医療は大変な状況ですが、引き続きよろしくお願い致します。

昨年末、その一年の世相を漢字ひと文字で表す「今年の漢字」が、京都の清水寺で発表されました。2022年はいくさの「戦（せん）」でした。

「戦」の字が選ばれた理由について、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻など戦争を意識した年であったことや、円安・物価高など生活の中での「戦い」を応募者の多くが体感したこと、またサッカーワールドカップの日本代表が強豪のドイツやスペインを破ったほか、冬の北京オリンピックで日本人選手が活躍するなど、スポーツの熱戦が繰り広げられたこともあげています。

株式相場では、【辰巳天井、午尻下がり、未辛抱、申酉騒ぐ、戌は笑い、亥固まる、子は繁栄、丑はつまずき、寅千里を走り、卯は跳ねる。】という格言があるそうで、卯年については、兎は跳ねる特徴があるため、景気が上向いたり、回復したりすると言われてしています。

清水寺で発表される「今年の漢字」が、「跳」や「躍」である事を切に願っております。

(阿部 周市)

編集委員：渡邊秀平・菅原真樹・吉田 宏・阿部周市・真島英太・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>